

今のように精度の高い気象予測がなかった昔は、「夕焼けがよいと明日は天気」「五竜岳に雲がかかれば明日は雨」など、親から多く

フリーント風 (現場)からの風

宮田竹男

この気象諺を学んだ。
しかし台風9号・10号の気象データは、暴風・大雨の地域別の警戒が必要な時間帯、予想最大瞬間風速、24時間予想雨量、雨雲の動きが各種情報ツールで瞬時に伝わってくる。事前に、特別警報の発表の可能性の言及や鹿児島上陸の見通しも伝えられたが、中心気圧が発表基準に達する見込みでなくなり当初より勢力が弱まつたとして、特別警報の発表を見送った。気象庁関係者は「住民の警戒感が緩む恐れもあるが、空振りも、ためらわざ情

報を出すのが基本の考え方」と説明した。台風の特別警報は、中心気圧と最大風速を基に出来られる。発表されたのは沖縄県で過去2回のみだが、これからも気象庁は空振りを恐れずに対応してほしいと願っている。

海面温度が極端に高くなる「海の熱波」。台風シーズンの今後が心配だ。生ある100度を超える大雨は想定外だったのだろうか。そのうちの人はどう感じのか、気象庁がホームページで説明している。1時間の雨量が10~20mmは「ザーザーと降り」、20~30mmは「じしゃ降

り」、30~50mmは「バケツをひっくり返したようになに降る」、50~80mmは「滝のようになる。(一)(一)と降り続く」、「80mm以上は息苦しいあなたの圧迫感がある。恐怖を感じる」とあるが、最近発生した30個以上のカボチャの姿は無くなっている。その場で食べ



おいしくするために食品トレーをカボチャの枕にするのだが、それがアダになったようだ

ボチャを収穫しようと行くと、多数のサルの集団が畑にいる。軽トラのクラクションを鳴らしても、ひとまわ退散される。しかし収穫を予定した30個以上のカボチャの姿は無くなっていた。その場で食べ

連絡するといふ。10分も掛からないうちに、岩岳地区のメンバーが対抗策を開始。対応の素晴らしさに驚きを覚え、周辺の農地の状況から、クマの活動の痕跡や、林の中では獸臭が漂っているとの話が、いじの耕作地での裁剪品田の再考が必要だと痛感した。

(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)

以前、村の調査にもサル被害を報告したが、今年はサルの姿を全く確認しておらず、被書を想定していないが、どんな表現になるのだろうか。9月上旬、周辺農地が荒廃し草木が茂り、近くに林がある畠の方